

2007年度

企画展

入場無料

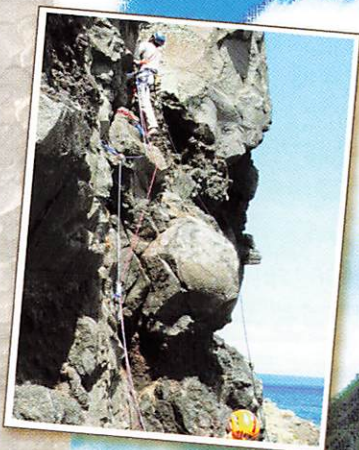
平成19年12月8日(土)

平成20年2月24日(日)

日本最後の秘境

南硫黄島

みなみいおうとう



ついに実現。



冒険野郎共
ここに集結!

25年振り3回目の学術調査。



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

休館日

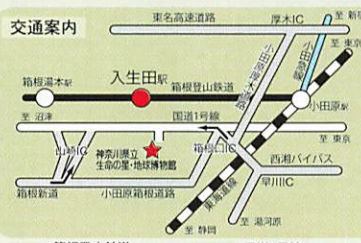
開館時間

入館料

毎週月曜日(12/24・1/14・2/11は開館)、9時～16時30分
12/29(土)～1/3(木)、1/8(火) (入館は16時まで)

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>

	企画展	常設展
65歳以上	無料	510円
20歳以上	無料	300円
20歳未満・学生		無料
高校生以下		無料



電車 箱根登山鉄道(小田原急線乗り入れ) 入生田駅下車徒歩3分
お車 国道1号線「地球博物館前」交差点(歩道橋に表示あり)入る

南硫黄島

2007年度

企画展

入場無料

平成19年12月8日(土)

平成20年2月24日(日)

伊豆諸島

小笠原諸島

小笠原列島
父島列島
母島列島火山列島
(硫黄列島)

南硫黄島

「秘境」

と呼ばれる地域は、各地にあります。が、「これぞ正真正銘の秘境」と言えるのが南硫黄島です。

この島は、東京の約1,300km南方に位置する、面積3.5平方kmの小さな無人島です。山頂の標高は916mと、伊豆・小笠原諸島の最高峰であり、平均傾斜45度と地形は急峻です。歴史上、人間が定住したことがなく、1975年に原生自然環境保全地域に指定され、人間の立ち入りが禁止されてきました。

このような“奇跡の島”で、1936年、1982年に続き、2007年に25年ぶり3回目の学術調査が東京都、首都大学東京を中心に実施され、当館学芸員も参加しました。

この企画展では、南硫黄島の学術調査の結果を、探検隊の日々の活動とともに紹介し、隊員がこの目で見て体感した原生自然の素晴らしさをお伝えしたいと思います。また、日本では数少ない手付かずの自然の姿を知ること、取り戻すべき自然環境を考える機会になり、小笠原の自然再生の目標の一つにもなることを願っています。

展示の紹介

① 出発まで

探検隊は、実は出発するまでが大変。

予算の獲得から、隊の編成、必要な物資のリストアップ、購入、パッキング...などなど、やることは山積み。

さらに絶海の孤島ゆえの上陸訓練、登山訓練など、目の回る忙しさでした。

おもな展示

- ・探検隊員の横顔
- ・出発までの準備活動(物資の手配、パッキング、登山訓練など)
- ・検疫作業(出発前の検疫、現地のクリーンルームと最終検疫など)

② 探検開始!!

いよいよ、島に向かって出発!

今回は海況には恵まれて、順調に上陸、荷揚げができました。すぐにベースキャンプを設営して、登山ルートを確認していきます。登山隊は苦労の末、登頂に成功! 滞在用の物資の荷揚げが始まります。

おもな展示

- ・上陸作業
- ・ベースキャンプ再現
- ・隊員の1日の食事
- ・島で消耗した物品、物資補給、取材班の活動など。

③ 調査の成果

ここからは、研究者が主役です。3チームに分かれて、山頂への調査を行いました。

ここでは、今回の調査で発見された新種の貝、再発見された絶滅種の昆虫や貝、南硫黄島特産の昆虫や植物、岩石など、さまざまな成果を貴重な実物標本で展示します。

おもな展示

- ・キバサナギガイ属の新種、ミナミイオウヒメカタゾウムシ、エダウチムニンヘゴ、ミナミトリシマヤモリなどの標本
- ・空から見た南硫黄島

④ 未来の探検隊への伝言、原始の自然の姿とは?

われわれ探検隊から、未来の探検隊へ。来館されたみなさんにも伝えたい「本物の」手付かずの自然についてのメッセージです。

関連行事 講演会

「南硫黄島探検隊の成果速報(仮題)」

日時 12月16日(日)
午後13:30~16:00

場所 当館ミュージアムシアター
*事前申し込みは必要ありません。

講演者
・ルート工作、物資補給
登山隊隊長 朱宮 丈晴氏
・探検隊の学術成果
学術隊隊長 加藤 英寿氏



サイパン島

15°N

グアム島

140°E

